

群 教 セ	M01 - 01
	平 22. 242集

# ふるさとへの愛情と誇りに関する調査研究

## — 東毛地域の中学校教師の指導と生徒の実態に視点を当てて —

長期研修員 小松崎 広幸

### 《研究の概要》

本研究は、群馬県東毛地域の中学校担任教師と第3学年の生徒を対象に「ふるさとへの愛情と誇り」に関する調査を行い、教師の身近な地域素材を活用した指導の実態と生徒の郷土に関する意識の実態を把握し、調査結果の分析を基に中学校における「ふるさとへの愛情と誇りをはぐくむ取組」に向けた提言を行うものである。

**キーワード** 【 調査研究 ふるさとへの愛情と誇り 中学校 地域素材 】

## I 研究の背景と目的

平成18年12月に教育基本法が改正され、前文や第1条の目的を実現するための目標の一つに「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が規定された。そして、学校教育法第21条第3項に「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う」ことが示された。これらを受け、平成20年1月の中教審答申を踏まえて改訂された学習指導要領の総則に「伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心」の教育の具現化とその充実を図る取組を積極的に推進することが示されている。また、本県の教育振興基本計画（平成21年度～）では、「ふるさとを愛する心を育てる」の取組14「ふるさとの歴史や先人の歩み、文化、自然を学ぶ」の中で、「ふるさとの歴史や文化、自然を伝え、ふるさとへの愛情と誇りをはぐくむ取組」の推進についての方向性が示されている。

### 1 現状と課題

#### (1) 先行研究の成果と課題

本研究にかかわって、次の二つの先行研究がある。

一つ目は、平成19、20年度の宮崎県高鍋町教育研究所の「ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成」についての研究である。その中に、地域の偉人、自然、旧所・名所、重要文化財等の地域素材をまとめた「高鍋ふるさとマップ」を作成、活用し、小中で連携した9年間の系統的な「ふるさと学習」の取組がある。

二つ目は、平成22年2月の「千葉教育」掲載の千葉県一宮町立一宮中学校野口志成教諭の「郷土に誇りと愛着をもった生徒の育成」についての研究である。その中で、中学生向けに作成された副読本「ちば・ふるさとの学び」を活用して、郷土の自然や文化の素晴らしさを再発見できるような学習活動を展開した取組が紹介されている。

いずれの研究も、成果として、児童生徒の「ふるさとへの愛情と誇り」をはぐくむために、教師の身近な地域素材を活用した具体的な指導が実践され、生徒の意識の変容が図られている。その一方、「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる取組や研究は、まだ、始まったばかりで、全国的にも少ないことが課題である。

#### (2) 先行調査から読み取れる成果と課題

「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる次の二つの社会調査がある。

一つ目は、リクルートじゃらん「ご当地調査」（平成22年度）「ご当地愛ランキング」である。この調査は、(株)リクルートのじゃらんリサーチセンターが、全国47都道府県それぞれの地元定住者を対象に地元に対する愛着やその内容について調査したものである。この調査で本県に対する県

民の「愛着度」は全国30位、「旅行おすすめ度」では全国32位である。

二つ目は、(株)ブランド総合研究所の「地域ブランド調査2010」(平成22年度)「郷土愛ランキング」がある。この調査は、各都道府県出身者を対象に「ふるさと」(自分の出身都道府県)についての「愛着度」(出身者自身が「ふるさと」に対して感じる意識)、「自慢度」(出身者自身が「ふるさと」を他者に誇れるかどうかの意識)などを調査したものである。本県出身者による群馬県に対する「愛着度」は35位であり、「自慢度」は36位である。

これらの二つの社会調査の成果として、本県の県民や出身者の「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる意識は高いとは言えない状況が明らかとなっている。課題として、このような大人たちの意識が及ぼす生徒の意識への影響が考えられ、本県の生徒の郷土に関する「愛着」や「自慢」の意識の実態を把握する必要があると考えられる。

「全国学力・学習状況調査」(平成21年度)では、表1に示すような本県の児童と生徒の「社会に対する興味・関心」にかかわる調査結果が出ている。

「今住んでいる地域の歴史や自然への関心について「関心がある」生徒を「関心がない」生徒が大きく上回っている現状がある。また、「今住んでいる地域の行事への参加」について、「参加する」生徒より「参加しない」生徒が半数を超えている現状もある。さらに、同じ質問について「関心がある」、「参加する」のいずれも、児童と生徒を比較すると、生徒よりも児童の方が高い結果となっており、生徒自身の「地域社会に対する興味・関心」が低い現状もある。

表1 「社会に関する興味・関心」児童生徒の比較

歴史や自然への関心	児童	生徒
ある	49.9%	24.6%
なし	50.0%	75.4%
地域行事への参加	児童	生徒
する	69.8%	42.1%
しない	30.1%	57.8%

### (3) 問題の所在

二つの社会調査から、県民や本県出身者の「ふるさと」である群馬県に関する「愛情」や「誇り」は高いと言えない状況があり、同じ大人である教師自身の本県に対する意識や地域への認識がどうなっているのが懸念される。特に、教師の地域への認識については、本県教育振興基本計画の取組14の中の課題にも示されており、その現状を把握する必要があると考える。

「全国学力・学習状況調査」(平成21年度)から、児童生徒の地域社会に関する「興味・関心」は、児童よりも生徒の方が低く、「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる生徒の意識は、大変危惧される状況であると言える。そのため、中学校段階において生徒の意識を高める何らかの教育の手だてが必要があると考えられる。

二つの先行研究が示すように他県には本研究主題にかかわる実践研究があるが、本県にはまだ、研究の成果発表が行われるような実践研究や調査研究はない。そのため、生徒の「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる生徒の意識の実態やそれをはぐくむための本県における教師による指導の現状について明らかとなっていない。今後、新学習指導要領が求める「伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心」の教育を具現化し、その充実を図る取組を推進するためにも、本県における「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる教師の指導の実態と生徒の意識の実態を把握する必要があると考える。

以上のことから、生徒の郷土に関する意識、教師の指導、教師の地域に対する認識に着目して、群馬県東毛地域の中学校の担任教師と第3学年の生徒を対象に「ふるさとへの愛情や誇り」に関する質問紙調査を行う。そして、教師の身近な地域素材を活用した指導の実態と生徒の郷土に関する意識の実態について把握するとともに、それらの調査結果を統計学的手法を用いた分析を行い、教師の指導と生徒の意識との関連を明らかにする。

## 2 研究の目的

「ふるさとへの愛情と誇り」に関して群馬県東毛地域の中学校担任教師の指導の実態と第3学年の生徒の意識の実態について調査し把握する。そして、それらを分析することで、教師の地域素材を活

用した指導と生徒の郷土に関する意識との関連を明らかにし、「ふるさとへの愛情と誇りをはぐくむ取組」に向けた提言を行う。

## II 仮説

「ふるさとへの愛情と誇り」をはぐくむために、次のことが検証できれば、教師の指導と生徒の郷土に関する意識との関連が明らかになるであろう。

- 身近な地域素材を活用した指導をしている教師は地域素材への「認識」がある。
- 教師が身近な地域素材を活用した指導を行えば、生徒は郷土に関する「認識」をもつ。
- 生徒は自分の郷土に関する「認識」「関心」があれば「感情」をもつ。

## III 調査対象

群馬県東毛地域の4市1郡（5町）の公立中学校44校から標本抽出により、23校を選定し、各校の第3学年の生徒と担任教師を調査対象とする。いずれも、有意水準95%で算出される標本数を上回っている。

- 生徒調査  
東毛地域の中学3年生、約5400名より標本抽出した約760名（抽出校の最大人数の1クラス）
- 教員調査  
東毛地域の中学1年生～3年生の学級担任教師、約470名より標本抽出した約230名

## IV 調査内容

### 1 調査にかかわる語句について

#### (1) 「ふるさと」とは

自分が生まれ育った土地のことであり、「郷土」に同じである。本研究では、本研究主題と質問紙調査において、温かみのあるニュアンスを生かしたいと考え、本県教育振興基本計画にある「ふるさと」という語句を使用する。また、「郷土」については、本研究における調査、分析、提言等の中で、一般的に使われる研究にかかわる語句として使用する。そして、「ふるさと」＝「郷土」の対象を「群馬県東毛地域」とする。その理由は以下のとおりである。

- 学校教育の取組による生徒の郷土に対する意識を把握するため、おおむね等質の地域での調査が妥当であること
- 研究者の出身地であり勤務校のある地域であること
- 生徒が生まれ育ち住み慣れた市町村と将来の生活圏として広がる地域であること

#### (2) 「生徒の郷土に関する意識」とは

図1に示すように、生徒の「郷土に関する意識」は、郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」

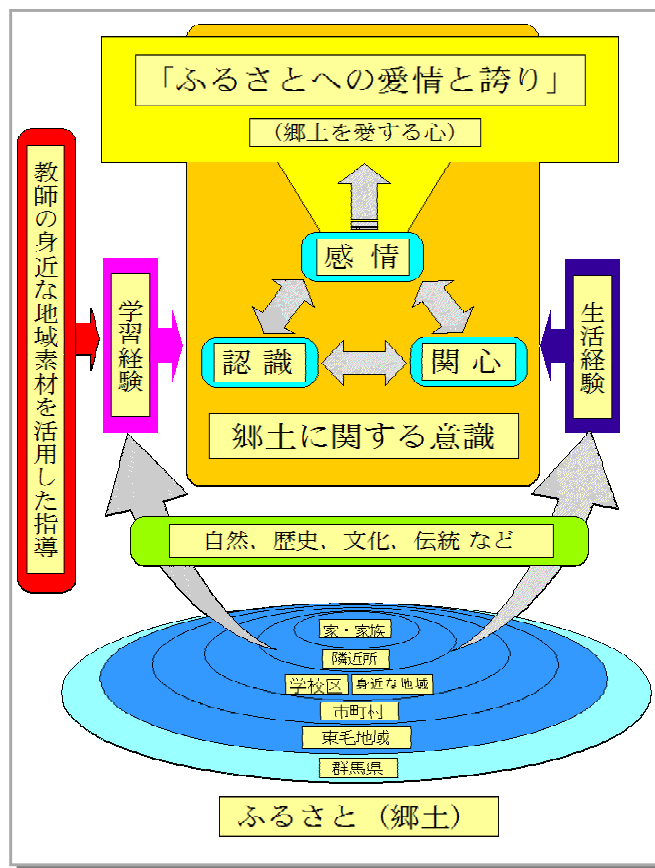


図1 「ふるさとへの愛情と誇り」にかかわる語句の関連図

の三つの要素からなるものと定義する。

郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」については以下のように考える。

- 「ふるさとへの愛情や誇りを感じている」ということを、自分の郷土に対する「好き」という気持ちや「自慢したい」という心情面を表すと考え、郷土に関する「感情」とする。
- 「ふるさとの自慢したいところが言える」ということを、自分の郷土のよさを知り、その価値を理解している状態と考え、郷土に関する「認識」とする。
- 「ふるさとのことをもっと知りたい」ということを自分の郷土について、より面白みを感じたり、気に掛けたりしている状態と考え、郷土に関する「関心」とする。

郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」は、人が成長する過程で、家族、隣近所、学校区、市町村などの自分を取り巻く社会の広がりに伴なって、そこに存在する自然や歴史、文化、伝統に触れ、様々な学習や生活経験を通して、相互にかかわりながら、高められていくものと考え。特に、「感情」が高められ、深められることで「ふるさとへの愛情や誇り」をもつことにつながると考える。

### (3) 地域素材とは

郷土に存在する自然や歴史、文化、伝統にかかわる地域の代表的な人やもの、場所等であり、その地域の特色を示し、由来や逸話に教育的な価値を含み、さまざまな教科領域で教材として活用し得ると考えられるものごとを地域素材と定義する。本研究では、右の表2のようなカテゴリに属する地域素材を取り上げる。

## 2 調査の基本的な考え方

本研究では、「ふるさとへの愛情と誇り」について、教師の地域素材を活用した指導と生徒の郷土に関する意識との関連を明らかにするために、義務教育最終学年である中学校第3学年の生徒とその指導に各教科や道徳、特別活動等の面から直接かかわる中学校担任教師を対象に次の三つの観点から調査を行う。

### (1) 「生徒の郷土に関する意識」について

生徒の郷土に関する意識の三つの要素「感情」、「認識」、「関心」は相互に関連し高まるのではないかと考えた。そこで、東毛地域に対する「感情」、「認識」、「関心」について、評定尺度4段階の質問を行い、その回答の割合から、生徒の郷土に関する意識の実態を把握する。そして、生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」の相互のかかわりを明らかにする。

### (2) 「教師の指導と生徒の郷土に関する『認識』」について

教師の指導があれば生徒の郷土に関する「認識」をはぐくむことができるのではないかと考えた。そこで、「教師の地域素材を活用した指導」について、評定尺度4段階の質問を行い、その回答の割合から、教師の指導の実態を把握する。そして、「教師の地域素材を活用した指導」と生徒の郷土に関する「認識」との相関を分析し、「教師の指導」と「生徒の認識」の関連について明らかにする。

### (3) 「教師の指導と地域素材に関する『認識』」について

教師が指導を行うには、教師が地域素材の「認識」をもつことが必要であると考えた。そこで、「教師の地域素材を活用した指導」についての回答を「肯定」と「否定」で集計するとともに、教師の地域素材の「認識」について、多項選択式による回答から教師一人一人が「認識」をもつ地域素材の個数を把握し、クロス集計を行う。そして、「指導をしている」教師の「認識」数と「指導

表2 カテゴリ化した主な地域素材

カテゴリ	地域素材の主な調査項目
遺跡・文化財	岩宿遺跡・海老瀬貝塚・天神山古墳・金山城・館林城、桐生明治館、藍屋紙工場、彦部屋敷 など
先人・有名人	新田義貞、四上景龍、大谷休治、田中正逢、田山花樵、向井千秋、星野富弘、相沢忠洋、中島知久平 など
寺・神社	世良田東照宮、分福茶釜の茂林寺、縁切寺清徳寺、大光院、雷電神社、白滝神社、真船神社 など
祭り・行事	大間々鹿舞祭、尾島ねぶた祭、桐生八木節祭、川せがき、生品神社鏡矢祭、えびす餅、鶴舞賀茂神社萬燈 など
伝統芸能	八木節、ささら・獅子舞、太々神楽
名所・公園	桐生が岡公園、ぐんま子どもの国、つつしが岡公園、小平の里公園、群馬の水郷公園 など
地域産業	桐生織、中野餅(かすり)、自動車工業、電気機械工業、醸造業(醤油、酒) など
農産物	米・麦、なし・ぶどう、きゅうり・なす、大根・漬け物、スイカ、ヤマトイモ、トマト、シクラメン など
美術館・博物館	県立館林美術館、富弘美術館、新田荘歴史資料館、コフント館、ぐんま昆虫の森、旧花輪小学校記念館
郷土食	川魚料理、そば・うどん、焼そば、焼まんじゅう、ソースカツ丼、栗落雁(らくがん)
交通	渡良瀬渓谷鉄道、東武鉄道、赤岩渡船、北関東道
自然	多々良沼などの低溼湖沼、利根川や渡良瀬川の自然、高津戸峡、渡良瀬遊水池、水琴・揚舟 など
公共施設	シンボルタワー、室内プール
その他	商店街や商業施設、国際化、スポーツ(野球ラグビー)

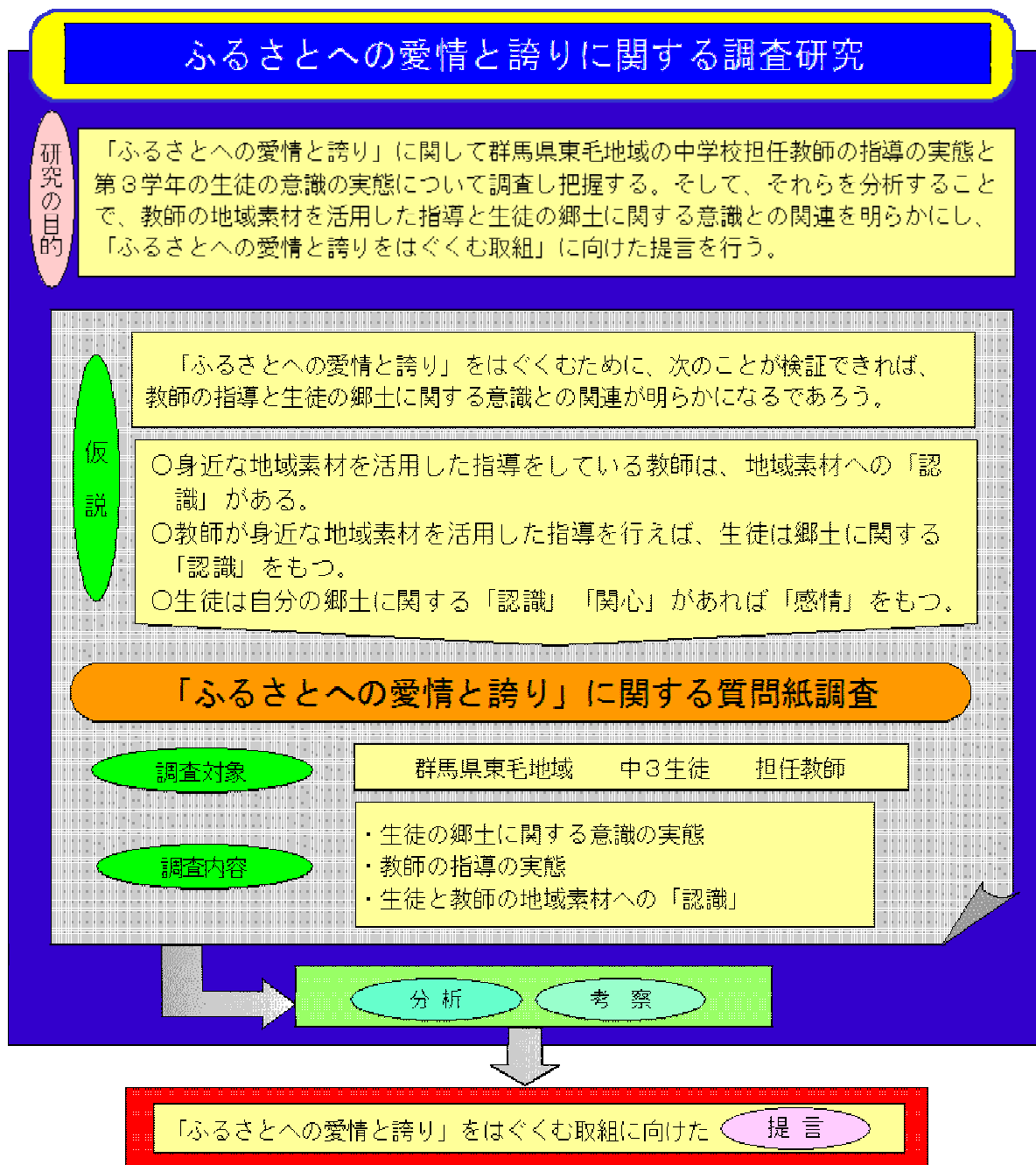
をしていない」教師の「認識」数に着目して、その平均値の差や「認識」数ごとの教師の指導の有無の人数の有意差を分析し、教師の指導と地域素材の「認識」との関連を明らかにする。

## 2 具体的な内容

本調査の主な内容は、以下のとおりである。

- 教師の地域素材を活用した指導の実態 …… 評定尺度法（４段階）
- 生徒の郷土に関する意識の実態 …… 評定尺度法（４段階）
- 生徒の地域素材の「認識」：自慢したいところ（もの） …… 多項選択式
- 教師の地域素材への「認識」：生徒に誇りをもちたいところ（もの） …… 多項選択式

## 3 研究構想図



## V 調査の実施

### 1 調査分析の視点

#### (1) 調査票

(SQS質問紙調査票)

- 中3生徒用
- 担任教師用

図2 調査票(一部) 左:中3生徒用 右:担任教師用

#### (2) データ処理の方針と分析

##### ① データ処理の方針

- 各学校ごとの教師の指導、生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」についての評定尺度4段階での回答を「肯定」部分と「否定」部分で集約する。
- 生徒と教師の地域素材の「認識」については、多項選択式の回答を各地域素材ごとに実数で集計し、カテゴリ別に平均化した「認識」の割合を示す。

##### ② 分析の手法について

- 生徒や教師の集計データをもとにクロス集計を行い、その関係性をカイ二乗検定により、有意差を検証する。
- 教師の指導と生徒の郷土に関する「認識」との相関係数、生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」それぞれの相関係数を求め、その数値から相関関係の有無を解釈し、検証する。また、散布図を作成しその回帰直線の形状等からも相関関係の有無を判断する。相関の基準については、以下のとおりである。

【相関係数】相関は2変数の規則的関係を表す。

「正の相関がある」：一方が大きくなれば他方も大きくなる。

「負の相関がある」：一方が大きくなれば他方が小さくなる。

相関の強さは右の表により経験的に判定する。

引用文献：実践 心理データ解析／田中 敏 著 新曜社 1996 p257

負の相関	相関の強さの判定	正の相関
-1 ~ -0.7	強い相関がある	+1 ~ +0.7
-0.7 ~ -0.4	中程度の相関がある	+0.7 ~ +0.4
-0.4 ~ -0.2	弱い相関がある	+0.4 ~ +0.2
-0.2 ~ 0	ほとんど相関がない	+0.2 ~ 0

##### ③ 分析の視点について

調査結果を基に、教師の指導と生徒の郷土に関する意識との関連を明らかにするため、次のような視点で分析を行う。

- 地域素材を活用した指導と教師の地域素材に関する「認識」との関係
- 教師の指導と生徒の郷土に関する「認識」との相関関係
- 生徒の郷土に関する意識を構成する「感情」、「認識」、「関心」それぞれの相関関係

## VI 研究の結果

調査を実施したところ、担任教師227名、生徒714名の有効回答が得られ、その結果は以下のとおりである。

### 1 教師の地域素材を活用した指導と地域素材の「認識」について

#### (1) 教師の地域素材を活用した指導の実態

「勤務校のある東毛地域の地域素材を活用した指導をしている」の質問項目で調査した結果、身

近な地域素材を活用した教師の指導の実態は図3のとおりである。図3から、東毛地域の地域素材を活用した指導について、肯定32%、否定64%で、特に肯定の中の「よく当てはまる」は、わずか5%である。したがって、およそ6割の教師が東毛地域の地域素材を活用した指導をしていない現状がある。

## (2) 教師の身近な地域素材の「認識」について

表2のようにカテゴリ別に集計し、そのカテゴリごとの地域素材の「認識」の割合を平均化したところ、図4のようになった。図4より、教師の地域素材の「認識」は、どのカテゴリにおいても20%未満であり、教師の身近な地域素材の「認識」は低い傾向にあることが示されている。

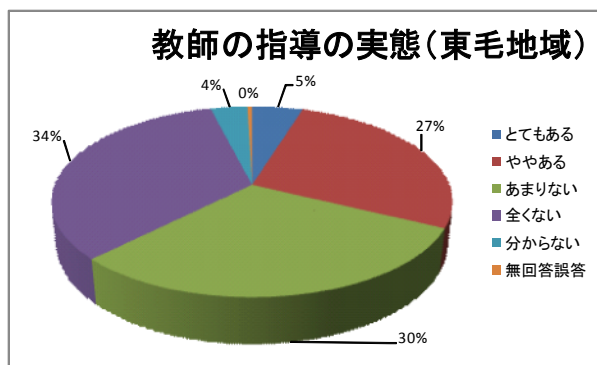


図3 教師の地域素材を活用した指導の実態

## (3) 地域素材を活用した指導と地域素材の「認識」数の差

下の表3が示すとおり、地域素材を活用した「指導をしている教師」の地域素材の「認識」数が、「指導をしていない教師」の「認識」数よりも、平均値で比較すると高い傾向がある。また、表4では、教師の地域素材の「認識」数(15以上)での地域素材を活用した「指導をしている教師」の人数と「していない教師」の人数との間に、カイ二乗検定により、有意な差が認められた。

表3 指導の有無と教師の「認識」の平均値

地域素材活用	指導	「認識」平均値
市町村	あり	12.0
	なし	10.1
東毛地域	あり	13.2
	なし	10.0
両方	あり	13.0
	なし	9.7

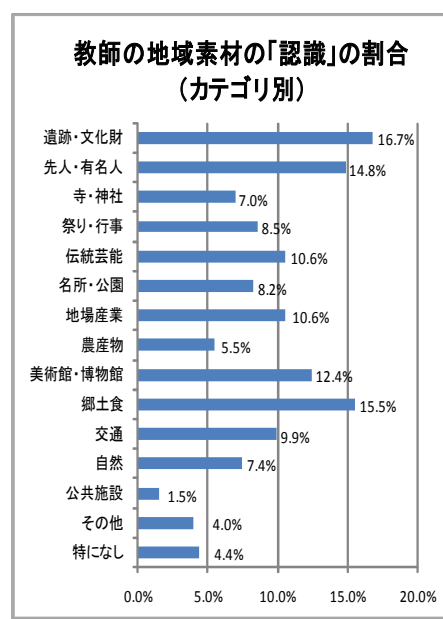


図4 教師の地域素材の「認識」

表4 教師の「認識」数ごとの地域素材を活用した指導の有無の人数

教師の指導\認識	認識(15~)	認識(10~)	認識(3~)	認識(0~)
地域素材活用あり	21▲*	9	29	7
地域素材活用なし	20▽*	24	47	25

注: ▲有意に多い、▽有意に少ない、\* p<.05 /Analyzed by JavaScript-STAR

## 2 教師の地域素材を活用した指導と生徒の郷土に関する「認識」について

### (1) 生徒の身近な地域素材の「認識」の実態

生徒の身近な地域素材の「認識」について、表2のようにカテゴリ別に集計し、そのカテゴリごとの地域素材の「認識」の割合を平均化したところ、図5のようになった。図5より、生徒の地域素材の「認識」は、「郷土食」以外のいずれのカテゴリにおいても10%未満であり、「特になし」が18.3%と最も高い数値を示していることから生徒の地

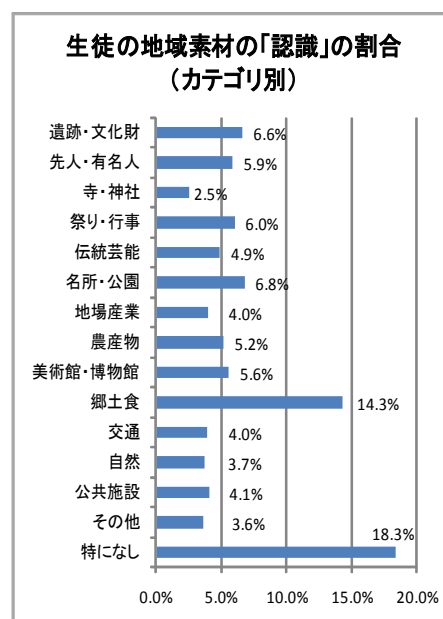


図5 生徒の地域素材の「認識」

域素材の「認識」が低いことが分かる。

## (2) 生徒の郷土に関する「認識」について

図6から、生徒の郷土に関する「認識」は、肯定約34%、否定約51%、分からない約14%で、郷土に関する意識を構成する「感情」や「関心」との比較でも最も低い数値を示している。

## (3) 教師の地域素材を活用した指導と生徒の「認識」の相関

教師の東毛地域の地域素材を活用した指導と生徒の郷土に関する「認識」との関係を相関係数を求めることで分析した。表5が示すように、中3担任教師の「指導（あり）」と生徒の「認識（あり）」で0.5以上の相関係数の数値であることから相関が認められた。また、中3担任教師の「指導（なし）」と生徒の「認識（なし）」では、0.9以上の相関係数の数値を示すことから強い相関が認められた。

表5 地域素材を活用した指導と生徒の「認識」の相関

担任教師\中3生徒	認識あり
中3担任教師の指導あり	0.529
全担任教師の指導あり	0.435
担任教師\中3生徒	認識なし
中3担任教師の指導なし	0.992
全担任教師の指導なし	0.347

## 3 生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」について

### (1) 生徒の郷土に関する意識の実態

図6から、生徒の東毛地域への愛情と誇りを感じる（感情）について、肯定約49%、否定約41%、分からない約10%であり、愛情と誇りを感じている生徒の割合は半数弱であり、「とても感じる」の強い肯定は11%余りである。また、東毛地域の自慢したいところ（もの）を言えること（認識）については、肯定約34%、否定約51%、分からない約14%であり、東毛地域への関心についても、肯定約38%、否定約55%、分からない約6%であり、郷土に関する「認識」、「関心」が低い割合を示している。

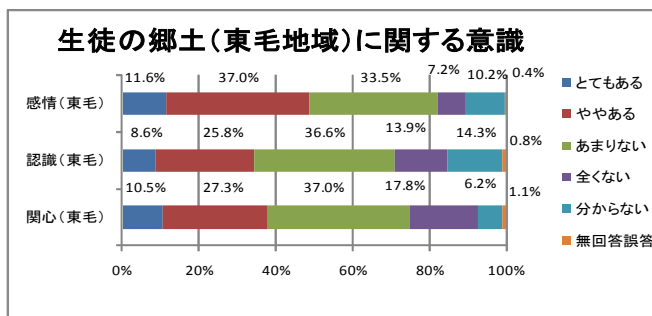


図6 郷土（東毛地域）に関する意識の実態

東毛地域への関心についても、肯定約38%、否定約55%、分からない約6%であり、郷土に関する「認識」、「関心」が低い割合を示している。

### (2) 生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」それぞれの相関

生徒の東毛地域に関する「感情」、「認識」、「関心」それぞれの相関関係を相関係数を求めることで分析した。その結果、表6にあるように「生徒の感情（あり）」と「生徒の認識（あり）」、「生徒の関心（あり）」のそれぞれの組合せと「生徒の感情（なし）」と「生徒の認識（なし）」、「生徒の関心（なし）」のそれぞれの組合せ、すべてにおいて、相関係数が0.9以上の数値であることから強い相関が認められた。

表6 生徒の東毛地域に対する意識(感情、認識、関心それぞれの相関)

生徒の意識	感情あり	認識あり	関心あり
感情あり		0.999	0.989
認識あり	0.999		0.982
関心あり	0.989	0.982	
生徒の意識	感情なし	認識なし	関心なし
感情なし		0.978	0.986
認識なし	0.978		0.999
関心なし	0.986	0.999	

また、生徒の東毛地域に関する「感情」、「認識」、「関心」それぞれを学校別に集計し、相関係数を求めた分析でも、相関がある数値が認められた。例として、「生徒の「感情（あり）」、「生徒の認識（あり）」、「生徒の関心（あり）」それぞれの三つの組合せを散布図で示すと図7、8、9に見られるようにその回帰直線の形状が直線になっており、明らかな相関関係が認めら

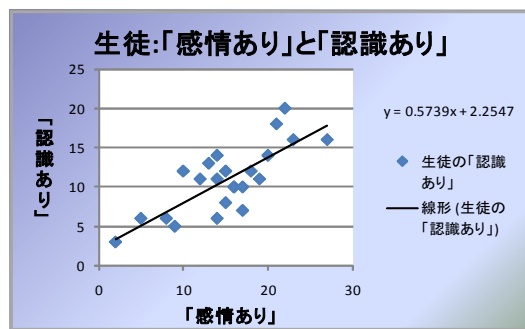


図7 散布図「感情」と「認識」



れる。

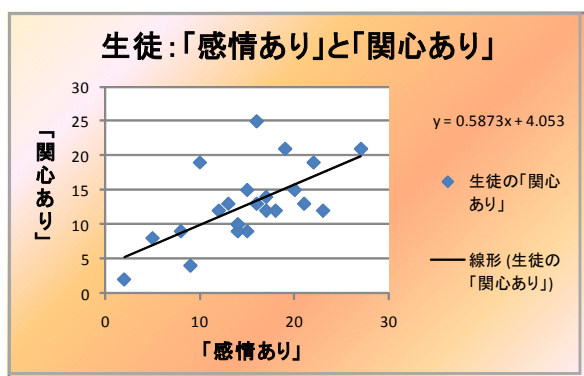


図8 散布図「感情」と「関心」

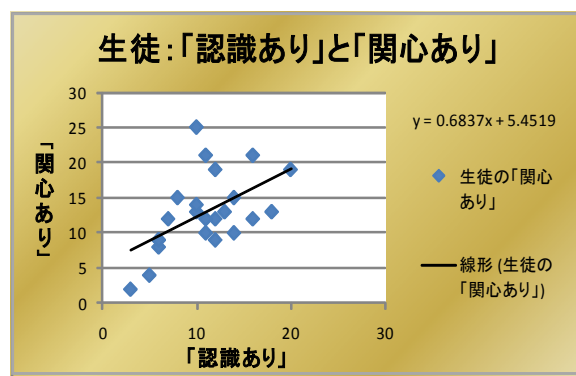


図9 散布図「認識」と「関心」

## Ⅶ 研究の考察

### 1 教師の地域素材を活用した指導と地域素材の「認識」について

図4で明らかのように、教師の身近な地域素材の「認識」は低い傾向にある。

また、表3の平均値の差や表4の数値のカイ二乗検定による有意差から、本研究の仮説「身近な地域素材を活用した指導をしている教師は地域素材への『認識』がある」が検証され、身近な地域素材を活用した「指導をしている教師」は「指導をしていない教師」よりも、地域素材の「認識」が高いと言えることが明らかとなった。

### 2 教師の身近な地域素材を活用した指導と生徒の郷土に関する「認識」について

図3が示すように、東毛地域に勤務する中学校担任教師の身近な地域素材を活用した指導は、約3割の取組であるという低い指導実態であることが明らかとなった。

また、このような中学校担任教師の地域素材を活用した指導と中学校第3学年生徒の郷土に関する「認識」についての相関関係は、表5が示すように、中3担任教師と中3生徒との間に相関が認められた。このことから、本研究の仮説「教師が身近な地域素材を活用した指導を行えば、生徒は郷土に関する『認識』をもつ」が検証され、教師が身近な地域素材を活用した指導を行えば、生徒は郷土に関する「認識」を高められると言えることが明らかとなった。

### 3 生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」について

図6が示すように、東毛地域の中学校第3学年生徒の郷土に関する意識は総じて高くない実態である。具体的には、郷土に関する「感情」では約半数の生徒が、郷土に関する「認識」と「関心」については約3割の生徒が、肯定的な意識をもっていることが分かった。

また、表6、図7、8、9が示すように、生徒の郷土に関する意識を構成する「感情」、「認識」、「関心」それぞれには、強い相関関係が認められた。このことから、本研究の仮説「生徒は自分の郷土に関する『認識』『関心』があれば、『感情』をもつ」が検証され、生徒の郷土に関する「感情」、「認識」、「関心」には、相互に関連があることが明らかとなった。

## Ⅷ 研究のまとめ

### 1 成果

はじめに、本県東毛地域における「ふるさとへの愛情と誇り」に関する教師の指導の実態や生徒の郷土に関する意識の実態から、生徒の郷土に関する意識を高める必要性と教師の地域素材を活用した指導が必要であるという課題が明らかとなった。

次に、本研究の仮説が検証され、図10に示す教師の指導と生徒の郷土に関する意識との関連が統計学的な分析手法で明らかとなった。それは、①地域素材を活用した指導をしている教師は、地域素材への「認識」があること、②教師の地域素材を活用した指導と生徒の郷土に関する「認識」に相関関係があること、③生徒の郷土に関する意識を構成する「感情」、「認識」、「関心」に強い相関関係があることの三点である。

以上のことから、「ふるさとへの愛情と誇り」をはぐくむ取組に向けて、次のような提言を行う。

**提言**

- ① 教師が勤務地域の身近な地域素材についての「認識」を高めましょう。
- ② 生徒の「関心」のある身近な地域素材を活用し、生徒の郷土に関する「認識」を高めましょう。
- ③ 各教科領域で身近な地域素材を活用し、生徒の「認識」や「関心」を高める指導を行い、郷土に関する「感情」を育てましょう。

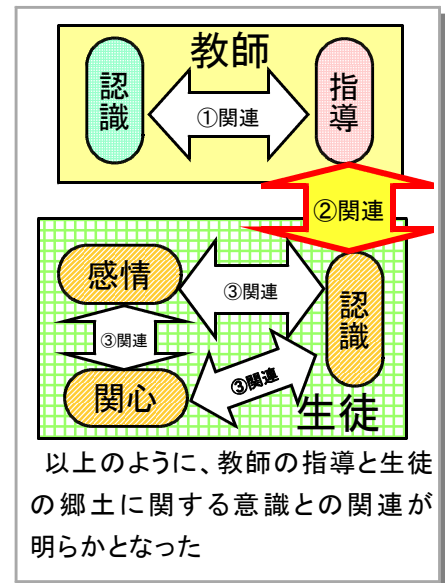


図10 研究の成果

**2 課題**

約半数以上の生徒が郷土に関する意識が低い実態が明らかであり、教師も「ふるさとへの愛情と誇り」をはぐくむための身近な地域素材を活用した指導ができていない実態がある。したがって、今後、上記の提言に基づくような取組の実践がなされていく必要がある。そのために地域素材の掘り起こしや有効に活用できる教材作り、資料作りをしていくことが課題である。また、本調査研究では、小学校における「ふるさとへの愛情と誇り」に関する調査を行っておらず、小中で連携した取組をどのように行っていくかも、今後の課題である。

提言を具体化し、身近な地域素材を教師が知り、活用するための手掛かりとなる「東毛ふるさとお宝マップ」を作成し、地域素材を例示する。

「東毛ふるさとお宝マップ」とは

- ① A 4 裏表 ②印刷してすぐ使える ③興味・関心を喚起するエピソード
- ④教科領域での地域素材の活用の手掛かりとなる内容 ⑤写真（画像）入り
- ⑥電子媒体（CD、DVD等）で配布

<参考文献>

- ・初等教育資料2009. 1 「伝統・文化に関する教育の推進」／東洋館出版
- ・中等教育資料2007. 9 「学校における伝統・文化に関する教育の充実」／ぎょうせい
- ・道徳と特別活動2006. 9 「ふるさとを愛する心を育てる授業づくり」／文溪堂
- ・伝統や文化に関する教育の充実 中村 哲(編)／教育開発研究所
- ・Excelでできるらくらく統計解析－Windows版Excel2007/2003/2002対応－藤本 壱(著)／自由国民社

